

No 1 : 香港 1 年生

1 日早朝、自宅を出て JR 那須塩原駅から始発の新幹線に乗った。羽田空港をたち、数時間。キャリーケース 2 つを手に、香港国際空港に降り立った。目指したのは当面の宿泊先。中心部の湾仔（ワンチャイ）駅から徒歩 5 分のホテルだ。

超高層ビルと屋台街が併存する繁華街。林立するビルが視界をふさぐ。スマートフォンのマップの矢印が示す先は、人気のない狭い坂道だった。

「どこだ」。汗が止まらない。1 時間かけてやっとたどり着いた。一息ついて部屋の窓から階下を見下ろす。ホテルの前を通る広くてなだらかな別の道が、そのまま駅に続いていた。

香港は、総面積 1,110 平方キロ、人口 750 万人。面積は本県の 6 分の 1 で人口は 4 倍だ。中国の南東端に位置し、言語は主に広東語と英語。関税のない自由貿易港や世界有数の金融センターが特徴だ。主要産業は金融、不動産、観光、貿易。実質 GDP（国内総生産）成長率や 1 人当たりの GDP は日本よりも高い。

2024 年時点でみると、日本との関係では、農林水産物・食品の輸出額が米国に次いで 2 位と高い。日系企業は 1,400 社以上が進出する。香港在留の邦人数は 2 万 3 千人。訪日した香港人数は 268 万人で、過去最高を記録している。

本県との関係でも、香港人の県内宿泊数は常に上位だ。製造業や飲食業などが進出する他、農産物や加工食品の輸出も盛ん。日本酒の人気も高く、店頭には本県の日本酒が並ぶ中、今月は、中心部の湾仔にて惣誉酒造（市貝町）、隣接する繁華街の銅鑼湾（コーズウェイベイ）では富川酒造店（矢板市）のイベントがそれぞれ開催された。県香港事務所も参加し、多くの香港人が本県の上質な日本酒を堪能する姿や蔵元の方々が活躍する姿を目にした。県民として誇らしさを感じるとともに身が引き締まる思いも持った。



【銅鑼湾で開催された日本酒イベント＝4 月 12 日、香港】

香港に事務所を構え 35 年。海外展開・販路拡大支援、観光誘客などを行い、担当範囲は東アジアや東南アジアにも及ぶ。4 月よりその重責を担うこととなった。「百聞は一見に如かず」。赴任前のイメージとは異なり、目の前の香港は活気に満ちている。「徒歩 5 分」の道のりも実際に歩いてみないと分からない。不惑を過ぎた香港 1 年生だが、この地でいち早く多くの皆さまのお役に立てるよう精一杯努めていきたい。

県香港事務所長 鈴木高明